



内藤万里助後造酒公私日乗 (山口県文書館所蔵)

明治五年ノ濱田地震  
(今村明恒著 震災予防調査会報告書第77号 1913年)

発生年月日	明治5(1872)年2月6日(新暦3月14日)午後4時40分頃
震源	島根県浜田沖
マグニチュード(推定)	7.1
各地の震度(推定)	震度7(最大震度): 島根県浜田市 震度5~6: 萩、小郡、島根県益田市 震度5: 下関、山口、徳地、弥富、油谷 (宇佐美ほか(2013):『日本被害地震総覧 599-2012』, 東京大学出版, 694pp.による)
被害の規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「馬関支庁記録」に、豊浦郡横野村(現下関市横野町)の横野八幡宮の鳥居が倒壊し、同郡彦島八幡宮の笠石が落ち、さらに同郡武久村(現下関市武久村)善福寺の門が大破するなどの被害が記録されている。</li> <li>■ 山口県初代県令中野梧一の日記「中野梧一日記」に、湯田温泉ではランプが壊れ、瓦が落ちたことが記されている。</li> <li>■ 道場門前の商家安部家の日誌「年中日誌」に、瓦が落ちる被害が記されている。</li> <li>■ 当時萩にいた旧萩藩士内藤万里助恣の日記「内藤万里助後造酒公私日乗」からは、萩でも被害があり、16日まで余震が続いたことがわかる。</li> <li>■ 島根県浜田測候所が地震から40年後の明治末期に行った調査結果をとりまとめた「明治五年旧二月六日浜田地震」には、萩市沖の見島で約1.2mの海面上昇があったことが記されている。</li> </ul>
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 島根県を中心とする日本海沿岸地帯で、死傷者は1,100人以上に上り、家屋の全半壊は焼失を含めて1万件弱に及んだ。特に島根県では、死者約550人、家屋の全潰約5千棟が発生した。</li> <li>■ 島根県浜田市の海岸では地盤の著しい隆起・沈降が起きた。また、地震の5~10分前に海水が最大で約2.4m引いた後、地震後に最大で約3mの高潮が押し寄せた。</li> </ul>



はまだじしん にほんかいがわ ほざしみしま つなみ  
浜田地震では、日本海側の萩市見島で約1.2mの津波が来たんだ。  
地震のゆれによる被害だけでなく、津波にも注意が必要だよ。

## トピックス

### 震度の観測

平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機に、都道府県による震度計の整備が進められ、山口県では、平成9年3月に震度計の設置が完了し、4月から運用が開始、11月から気象庁が発表する地震情報に利用されているんだ。

地震情報で発表される山口県内の震度観測点は、現在、山口県54地点、気象庁10地点、防災科学技術研究所12地点の76地点なんだよ。

